

自分と身近な人びと

文化事象例	扱うポイント
a. 名前に関すること (姓の数や由来、姓と名前の順番、本貫制度、名前のつけ方、表記、人気のある名前、男女差)	a. 婚姻により姓名がどうなるかを考える。同姓同本不婚など韓国の名前に関する原則を知り、伝統や価値観が継承されていることに気づくとともに、現代の若者がそれに対してどのような考え方を持っているかを考察する。
b. 相手(友だち、家族、親族など)に対する呼びかけ方	b. 相手の年齢などによる言語・非言語コミュニケーションの違いに気づく。
c. 年齢に関すること(満年齢と数え年、旧暦と新暦の誕生日など)	c. 長幼の序を重んじる韓国では、初対面でも年齢を聞くことが多いことに気づく。年齢の数え方は、日本も1949年12月まで韓国と同じ数え年だったこと、数え年と満年齢は生まれた時を1歳とし、以降1月1日を迎えるたびに1歳ずつ加えて数える年齢か、生まれた時を0歳とし、以降誕生日を迎えるたびに1歳を追加して数える年齢であることを理解する。
d. 星座と干支	d. 韓国人と星座と干支との関係について理解する。 例1: いのしし→“돼지”(豚)。 例2: “칠석”(七夕) 韓国の名節の一つであり、中国から伝わったものであるが、少しずつ改変され韓国人びとに伝わっている。
e. 高校生が好きなこと	e. 韓国の高校生が日本の文化(サブカルチャーを含む)の何に興味・関心をもっているかなどに問題意識をもつ。韓国の高校生が好きなことを調べ、自分たちの好きなことと比較してみる。
f. 高校生のコミュニケーションツール(メール・ネット・チャット・携帯電話など)	f. 韓国の高校生のパソコンの活用率が高いことを知る。自宅に自由に使えるパソコンを保有している割合は90%を超える。
g. ペット事情	g. ソウル市内では、住宅事情の関係で小型犬を飼う傾向があることに気づく。また、ネコについては、日本と異なった考え方があることに気づく。
h. 家族の形態(核家族、大家族、単身赴任、一時分散家族)	h. 少子高齢化や離婚率のデータを見て、韓国の家族形態の現状と課題について理解し、家族間の人間関係について話し合う。
i. 将来の夢や人気のある職業	i-k. 日韓高校生の特色と共通性に気づく。 i. 韓国高校生の将来つきたい職業 「高校生の意欲に関する調査報告書」(2007、日本青少年研究所他) 1位「小中高の教師33.4%」、2位「会社・企業の経営、管理職29.1%」、3位「美術家、デザイナー24.7%」、4位「政府機関の公務員24.4%」、5位「営業・販売・サービス業18.0%」 複数回答
j. 尊敬する人物	j. 安重根、李舜臣、申師任堂(朝鮮時代 立派な母像)、金九

自分と身近な人びと

k. 卒業後の進路(大学進学率、留学願望、就職など)	<p>k. 卒業後の進路 「高校生との友人関係と生活意識調査報告書」(2006、日本青少年研究所他) 将来、どの程度の教育を受けたいか 1位「4年制大学まで」54.7%、2位「専門・専修学校まで」9.6%、3位「博士まで」9.3%、4位「学歴にこだわらない」9.3% 「中学生・高校生の生活と意識調査報告書」(2009、日本青少年研究所他) ・もし可能なら外国へ留学したいと思うか 韓国高校生:はい63.7%、日本高校生:はい40.6%</p>
l. 好かれるタイプ(性格、容姿)	l. どのようなタイプが好かれるか考える。
m. 家族や親戚との付き合い(日常生活と行事)	m. 家族・親戚関係について、日韓を比較し、韓国の特色を理解する。日韓双方とも時代と共にそうした価値観が変わりつつあることも理解する。
n. 家族に対する思いや誇り	n. 韓国人が思い描く理想の家族像を知り、日韓の家族観の違いを知る。
o. 親友とすること(スキンシップ)	o-p. 友人関係と人間関係について、日韓を比較し、それぞれの特色を浮き彫りにする。また、その背景について探ることを通して相互理解の基盤を構築する必要性に気づく。
p. 異性との付き合い(デートの仕方)	
q. 人と人との距離感	q. 日本人に比べて、韓国人はスキンシップを求める傾向があることを知る。
r. 兵役の義務	r. 徴兵制度を知識として教えるだけでなく、兵役の義務と異性関係、兵役の義務と人生設計について考える。なぜ兵役の義務があるのか、自分ならどうするかなど。

学校生活

文化事象例	扱うポイント
a.授業科目と時間割（朝礼、ホームルーム、登校・下校時刻）	a. 同じ科目でも授業の内容や評価方法が違うことに気づく。韓国では、道德のテストや道德に「評価」があることを知り、興味・関心をもつ。
b.学校の設備	b-e. 対象となる韓国の高校の学校要覧などと自分の学校の状況と比較し、韓国の学校の状況を認識する。
c.課外活動（クラブ、放課後の補習、放課後の過ごし方）	
d.年間スケジュールと学校行事（長期休業、始業式、終業式）	
e.学年の呼び方	
f.学校の規模（生徒数と男女の割合、クラスの数、先生の数と男女の割合）	
g.学校の種類（小中高校、特殊学校、夜間中学・高校、女子高、男子高、共学 私立、公立、特殊学校）	f-i. 義務教育は初等学校から中学校までの9年間で。初等学校のほとんどが公立で、中学校は公立と私立の比率は3対1である。高校進学率は99.6%であり、ほぼ全員が進学する。高等学校は一般校と実業系校の2種類がある。6-3-3制をとっており、高校受験については学区に基づく総合選抜制がとられている。結果的に、大学入試が過熱するといわれている。校則は日本と比較して厳しく、体罰は容認されていたが最近法律で禁止された。高校の服装は、1980年代に自由化されたが、服装の乱れが指摘され、最近では制服(ブレザーなど)が一般的になった。
h.校則（体罰の有無、制服の有無）	
i.自宅から学校までの距離と通学手段	
j.受験勉強、進学塾	
k.教師と学生間、先輩と後輩間の呼び方や敬語の使い方	j. 大学受験にかける熱意を知り、その社会的背景を探る。 関連キーワード:大学入試でパトカー出動 k. 関連キーワード:“스승의 날”(5月15日) 毎日お世話になっている先生や恩師に感謝の気持ちを伝える日になっている。学校生活の中で、先生と学生の間での言葉使いを調べ、丁寧な言葉使いがよいのかうちとけた言い方がよいのか考える。
l.生徒、教師、保護者にとっての理想の学校や教師	l. 自分たちはどのような教師や学校を求めているかを考える。韓国の高校生にとっての理想の教師や学校と比較する。

日常生活

文化事象例	扱うポイント
a. 生活習慣(挨拶行動、宗教的習慣、起床・就寝時間など)	a. 以前は強い家父長制の上に成り立っていた。家族法改正によって夫婦平等・男女平等が実現し、大きな変化がもたらされた。しかし伝統的な家族観や儒教規範も根強い。
b. 自分や友だちの部屋-ホームステイ先の部屋などにあるもの	b. 住居の形式(アパート・マンション、伝統的家屋)や地域性(都市部か農村地域か)によって、部屋の置物が異なることも理解する。一方で、日本独特のもの(神棚や床の間の置物など)と韓国の置物の形状や色彩に着目する。
c. アルバイト・ボランティア(内容、勤務・活動時間、時給、場所など)	c. 韓国全教組の調査によると、「2011年6月6日から17日まで、全国の高校生1681人(人文系695人、専門系874人、特別目的高校11人、総合高53人)にアルバイトの実態を調べた結果、最近1年間にアルバイトをした学生は625人(37.4%)ということが分かった。つまり、韓国の高校生の1/3以上はアルバイトの経験があるということになる。アルバイトの理由の大半は経済的な問題からである。しかし、その待遇、とりわけ給与はそれほど恵まれていない。
d. 家族内の家事分担	d. 家事の手伝い よくする31.8%、時々する54.0%、あまりしない13.1%、しない1.2%。
e. 家族のルール(門限など)	e. 家族独自のルールなのか、韓国や地域に根付いたルールなのかを見極める必要がある。
f. 小遣い事情 携帯電話(使用頻度、使用料、相手、目的) 小遣い事情(金額、使い途、獲得方法)	f. 携帯電話のマナーについて、日韓の相違点を知る。その違いについては文化的な背景があることに気づく。韓国の高校生の小遣い事情は次の通りである。 定期的にもらっている44.3%、必要な時だけもらう52.2%、もらっていない3.4%。「自由に使えるお金の額」「ほしい小遣いの金額」が「20,001~60000원」で多く、50%近くとなっている。
g. 日常生活の悩みと解決法 日常生活全般について、日本と韓国との相違点と共通点について着目する。また、その文化的背景や歴史的背景を探り、おおよその傾向であることや地域性や個人(家庭)差があることにも気づく。	g. 韓国の人びとは、人の目を気にするよりも自分の感情に素直に表出する傾向がある。また、友人間のつながりは深く、個人的なことや家族のことも日常的に相談できる環境にある。一方で、家族関係や血縁など、縦の関係は暗黙のプレッシャーになることもあることに気づく。

食

文化事象例	扱うポイント
a. テーブルマナー(あいさつ、食事の際のタブー)	a. 日本での「いただきます」「ごちそうさま」と韓国での食事時の“잘 먹겠습니다” “잘 먹었어요”との相違点に気づく。
b. 調理方法(食材、調味料など)	b. 韓国の伝統的食生活との関わりについて知る。天ぷらのようなものがあるか、ビビンパはなぜ混ぜて食べるのかなどについて知る。
c. 食と健康志向	c. 韓国の高校生の半数はダイエットの経験者である。日本の高校生は3割弱である。朝食をきちんととっているか、間食や夜食について調べる。
d. 食べ方と残し方	d. 韓国のレストランでは“밑반찬”という、キムチやポテトサラダなどのつき出しが出る。これは無料でおかわり自由。
e. 年中行事の食べ物(正月、秋夕、クリスマス)	e-f. 正月や秋夕、クリスマスなどの年中行事と代表的な食べ物について理解を深める。
f. 代表的な食べ物(季節料理、前菜、メイン、デザートなど)	
g. 朝昼夕食の習慣、食卓に並ぶもの	g-j. 食事の際には、目上の人が食べ始めてから目下の人が食べるのがマナーであることや、食材が多いことが望ましいことに気づく。また、食器を持たないこと、箸やさじの基本的な使い方について理解を深める。キムチやチゲなどの食卓に並ぶ基本的なメニューについて知る。食器を手を持たないこと、チゲの食べ方などを知る。飲食店では、2人前からの注文が多い。注文前に“밑반찬”というつき出しが無料で出される。都市部では、ほとんどの飲食店でクレジットカードでの支払いが可能である。
h. ダイエット食品	
i. 食器とその使い方	
j. 飲食店での注文方法と支払方法	
k. 外食や食品の宅配	
l. 伝統食品	l. 伝統食品がそのまま継承されるだけでなく、現代の若者の食生活の中でいろいろな文化と融合して新たな食品が生まれていることに気づく。 関連キーワード: “불고기” “김치 버거”
m. 三食以外の食事(間食、おやつ、夜食)	m. 間食では、“파전”や“떡볶이”などを食べる人が多いこと、夜食では“치킨”や“족발”、“보쌈”などを食べる人が多いことに気づく。

衣とファッション

文化事象例	扱うポイント
a.制服(制服の有無、決まりなど)	a. 制服のきまり(着こなし:スカート丈や、ズボンのはき方、ソックスの色、ズックのきまり、罰則など)やヘアスタイル、かばんの規制など、日常の生活のさりげない違いを具体的に観察し比較する。ただし、その場合、日韓ともそれぞれ学校差があることに留意する。
b.はやりの私服・ヘアスタイル	b. マスコミ(芸能人)の影響が大きく、ロングヘアやショートヘア、黒髪かカラーヘアかの流行がある。しかし高校生は、校則や受験など関係で、最低限のファッションに限定される。髪を染めることは校則違反か調べる。
c.服を買う場所	c. 若者向けのインターネットショッピングモールが充実してきた。都市部では通常の店舗で購入は可能であるが、地方の若者にとっては、インターネットショッピングモールは流行を把握するための貴重な手段となる。
d.化粧、パーマ・染髪に対する考え方	d. 化粧、パーマ・染髪に対する考え方(する・しない、いつから・どのようになど)や、学校で化粧してもよいかなどを比較する。
e.ファッションや美容にかかる費用(金額や出所)	e. 韓国の高校生は、「おやつ代」、「洋服アクセサリー」「カラオケ、ゲームセンター、ネットカフェ」に小遣いを使う。使う金額は1ヵ月6万 程度。約44%が「親から定期的に小遣いをもらっている」と回答している。
f.服装や持ち物のTPO	f. 韓国の高校生の制服はブランド品と一般メーカーのものがある。ブランド制服は価格が高く人気がある。持ち物については、校内における携帯電話の使用について、日本同様の課題がある。
g.偽ブランドについての考え方	g. 偽ブランド品を購入した経験がある高校生は33.7%(日本の高校生は12.8%)。このことについてどう思うか。なぜ偽物を購入したり、使ったりしてはいけないか考える。
h.伝統的な衣服を着るとき・使い分け	h. 着物(和服)や韓服はどんなときに着るか比較する。韓服・改良韓服の使い分けを知る。
i.色が示す意味	i. 韓国は、「青、赤、黄、白、黒」の五色を自然界の基本色相とし、それぞれ「東、南、中央、西、北」「木、火、土、金、水」の意味を与えた。さらに、春は青、夏は赤など色には季節を示す意味がある。さらに、各色には、「青は新生、創造、希望」「赤は情熱、愛情、生成」などの意味をもたせ、色によって感情を表現させることもある。日本とどう違うか考える。

住まい

文化事象例	扱うポイント
a.自分の部屋(自分の部屋の有無、部屋にあるものなど)	a. パソコンがあるかどうか。ポスターや写真、掲示物などに着目し、話題にするとよい。
b.ベットか布団か	b. ベットか布団か
c.室内での座り方	c. 座敷の場合、女性はスカートをはいていても、あぐら座りをすることもある。また、片膝を立てて座ることもある。これらは伝統的に正しい女性の座り方。なぜそのような座り方をしていたのか考えてみる。韓服と着物の違いから座り方の違いが生まれたことに着目する。
d.部屋の違い(畳、オンドル、フローリング)	d. 韓国は“온돌”(床暖房・オンドル)での暖房が中心である。現在はガスや電力で熱した温水をパイプを通して各部屋に行き渡し、部屋全体を暖めている。冬期間、マイナス10度になる韓国で“온돌”は不可欠。
e.家の中の構造(広さ、間取り、浴室や玄関の有無など)	e. 家の中の構造は、玄関を開けると居間が続いている。日本のように廊下がある家は少ない。日本と比べてどちらが合理的で便利かを考えてみる。
f.家族の集う場所	f. 家族の集う場所では何をしているか調べる。
g.トイレ・洗面所・お風呂場	g. トイレとお風呂場が一緒になっている家が多い。
h.冷蔵庫(冷蔵庫の大きさ、種類など)	h. 冷蔵庫の大きさや種類などを比較し、その違いの理由を考える。
i.住居の種類(一軒家、マンション、連立住宅など)	i. 例: 아파트, 빌라, 오피스텔, 고급주택 それぞれの住居の特性について調べる。
j.家の周りの環境(マンションの周辺にある施設など)	j. 都市部では、マンション・アパートが密集することが多い。その場合は、飲食店や日用品店、スーパーなどが立地する。日本はどうか考える。
k.寒さ、暑さしのぎの工夫	k. 韓国では床暖房が中心。床から部屋全体を温める。暑さはエアコンと扇風機の活用。
l.ごみ出し	l. 家庭からのごみの排出は、一般ごみ、生ごみ、資源ごみ(紙・ガラス・金属・プラスチック)、粗大ごみに分別されている。ゴミの収集は、ソウルでは夜間や早朝に行われることが多い。
m.近所づきあい	m. 韓国では核家族化や少子・高齢化の進展で、都市部においては、以前よりも地域の絆が弱まっているといわれている。具体的な姿として、近所の人たちと挨拶や会話をしているかどうか観察したり、自分が生活している地域と比較したりする。
n.町内会、子供会	n. 町内会や子供会などがあるかを調べ、その活動の状況を確認する。
o.現代の住宅事情(都会と農村)	o. ソウルや地方都市などの人口密集地では、地価が高騰し、マンション・アパート形式の住居が多い。地方の小都市や農村地帯では、比較的伝統的家屋が残っている。

住まい

p.地域の環境と住宅の関係	p. 都市部ではマンション・アパートが集積したところにスーパーや各種食料品店、生活関連の店舗が徐々に整備される。
q.各地の伝統的住居	q. 韓国の伝統的住居・庭園は、その歴史的過程、社会的背景、および風土のもとに醸成された、種々の慣習・習俗に起因する制約のもとに構成されている。(稲次敏郎「韓国伝統的住居・庭園の構成要因に関する基礎的研究」日本デザイン学会『デザイン学研究(71)』pp.19-26、1989)
r.伝統建築の保存	r. 都市部においても、伝統的建築物を保存しようとする動向がある。世界遺産の登録やその他の文化財への登録を含め、伝統建築の保存とその価値の共有は日韓双方とも課題となっている。

からだと健康

文化事象例	扱うポイント
a. 身体(健康)によいこと・食べ物(睡眠時間、運動、食事、栄養補給剤、趣味と勉強など)	a. 年齢や地域性、性別により、健康に対する意識や健康維持の方法は異なる。日本との比較を通じて、韓国と人物の特殊性を見いだす必要がある。韓方医学では5色(赤、緑、黒、白、黄)の野菜をバランス良くとることが健康の秘訣とされている。ここで、ビビンパの具のことに興味・関心をもたせる。
b. 受験生の体力管理(食べ物、ジム通いなど)	b. 韓国の大学入試は、日本以上に社会的な圧力が強い。家族や親の期待を一身に受け、精神的にも身体的にもかなりの圧力を受けている。韓国の家庭では、それぞれどのような体力管理、心身の健康を図っているかに関心をもつことが大切である。
c. はやりのスポーツ	c. サッカーとプロ野球の人気がある。
d. はやりのダイエット方法	d. 食事の面では、5色の野菜をバランス良くとることが健康の秘訣であり、ダイエットにつながると考えられている。
e. 体を使ったゲーム・遊び(じゃんけん、手遊び、指きりなど)	e. 女性の“그네티기”(ブランコ遊び)と男性の“씨름”(韓国相撲)は体を使った一般的な遊びである。日本のじゃんけんは、日本人のグー・チョキ・パーでは“바위”が石、“가위”ははさみ、“보”は紙であるが、韓国では、グーが岩、パーは布の意味である。韓国式のじゃんけんについて調べる。韓国式指切りは日本式の指切り+親指をあわせ(押印の動作)、その後、手のひらをあわせる(コピーの動作)をする。
f. 病気の治し方(病院、薬局、漢方など)	f. 韓国では、東洋医学(漢方)と西洋医学の双方が位置づく。軽い病気の場合は、針治療を行う場合もある。
g. 病院の種類	g. 基本的に日本と同様の病院の種類がある。漢方医学やエステ関係の病院が目立つ。
h. お見舞いのエチケット(見舞いに持っていくもの、タブー、見舞いの決まりなど)	h. 病気のお見舞い時には、果物やジュースなど、栄養のあるものが一般的である。お見舞い時には、“안녕하세요”(アンニョンハセヨ)は禁句。「安寧、穏やかで平和」という意味がある。
i. 整形	i. 韓国は日本に比べて整形に対してネガティブなイメージは少ない。マスコミやインターネット、芸能界の動向、就職などで、整形に対して寛容な世論形成が進んだようである。二重瞼への手術が多く行われている。外見の変化を通じて積極的に人生を生きようとする内面的な意味もある。なぜ韓国では、整形について肯定的な考え方の人が日本より多いか考える。
j. 医療保険制度(医療費の負担など)	j. 韓国の医療費はかなり高額であることに着目する。以前の「低負担・低福祉」政策から、徐々に高福祉政策に舵取りをしてきたが、財政問題があり、日本と同様の課題を抱えている。

趣味と遊び

文化事象例	扱うポイント
a. 友だちとよく行くところ(休日や長期休暇)	a. 韓国の学校生活と放課後との関係について、日本の現状と比較する。
b. 人気のある習いごと	b. 日本の習いごとと比較する。ピアノ、テニス、英会話など。
c. 人気のあるスポーツ	c-e. 人気のあるスポーツや芸能情報などは、インターネットのホームページなどを参考にして、最新の情報を入手する。 参考: コリアネット (http://japanese.korea.net/index.do)
d. 人気のあるスポーツ選手、歌手、芸能人	
e. 人気のあるTV 番組、映画など	
f. 流行している遊び(ゲームなど)	f. SNSの利用とインターネット経由のゲームが流行していることを知る。伝統的な遊びも大切にされていることに気づく。
g. 家族との外出(行き先、頻度など)	g. 家族の外出については、日韓の相違よりも、それぞれ家族の価値観に起因する。しかし、一般的に韓国の方が家族と一緒に旅行に出かけることが多いという傾向がある。
h. 長期休暇の過ごし方	h. 韓国の高校生は、進学校の多くでは補習がある。日本の進学校と同等、あるいはそれ以上の厳しい状況である。海外ボランティアの活動や語学、留学など。
i. 遊びの約束(内容、方法、待ち合わせ時間など)	i. 友人間では、時間を守ることを含め、おおらかな傾向がある。日本の友人間であっても約束は守るものであるという厳格な関係にはなじまない部分がある。
j. 自己表現(ブログ、セルカ、Twitter、Facebookなど)	j. ブログやセルカ(セルフカメラ)、Twitter、Facebookなどが一般的に普及している韓国の状況を、自分の感情を素直に表出する文化的背景やネット社会の発展があることを知る。

買い物

文化事象例	扱うポイント
a. 店や販売形態(百貨店、スーパーマーケット、コンビニエンスストア、在来商店、売店、露店、市場、物売り、自販機など)	a-b. 店の販売形態や買い物の場所については、地域性や家庭の事情で異なることを知り、一部日本と同様に百貨店(例:ロッテデパート)などのブランド志向が強い人たちもいることを理解する。
b. 買い物の場所(日用品、誕生日プレゼントなど)	
c. 買い方と売り方(店舗販売とインターネットショッピング、定価販売と値引き交渉、現金とクレジットカード)	c-d. 韓国では値引き交渉ができるお店があることを理解する(デパートでは値引きが難しい)。購入量を多くすることで、割引になったり、付け加え(おまけ)があったりすることも理解する。クレジットカードの利用率・普及率が日本以上に高いことも知る。
d. 商品の陳列と値札	
e. 店や銀行の窓口、ATM などの営業時間	e. 都市部では、ATMが普及し、コンビニなどでは24時間利用可能になっている。一般の銀行では、日本同様の営業時間が設定され、手数料も必要である。
f. 紙幣・貨幣の種類	f. 長い間韓国の紙幣の最高額は、10,000ウォンが最高額であったこと。2009年に50,000ウォン札が発行されたことを理解する。しかし、50,000ウォンといえども、日本円で4,000円前後の価値であるため、日本以上にクレジットカードの普及率が高いことを知る。
g. 商品を入れる袋と包装(種類と仕方、エコバックの有無)	g. 商品を入れる袋は有料であることが多い。また、バックを利用する人が多く、環境への配慮が日本よりも強いことを知る。
h. 客と定員のやりとり(勧め方、断り方など)	h. 韓国の店員は積極的に説明してくる傾向があることを知る。また、ソウル市内では日本語ができる店員が多く、店員の熱意に日本人は断り切れずに購入してしまうことがあることを知る。
i. コピー商品事情(ニセモノと本物のこだわりなど)	i. ソウルでは日本人向けに、スーパーコピーといわれる偽ブランド商品がひっそりと売られていることについてどう思うか考える。
j. お金の使い方(小遣いの金額)	j. 日本の高校生は「外食代」と「洋服代」などに使う傾向があり、韓国の高校生は「おやつ代」「洋服代」などに使う傾向があることを知る。
k. お金の貸し借り(友人同士のお金の貸し借り)	k. こまかい金額について、さほど気にせず、お金は回るものという認識が強い。「お金もちに尊敬される」「できるだけお金持ちの友達をもちたい」については、韓国(高校生)の肯定率が高い。
l. 一番ほしいもの	l. どんなものをほしがっているか、自分と比べてみる。

交通と旅行

文化事象例	扱うポイント
a. 自転車登校	a. 自転車登校の可否について日韓の学校で比較する。
b. よく利用する交通機関	b. 韓国の高校は基本的に地域にある高校に通う。都市部では地下鉄かバスが多い。朝の自律学習のため親の自家用車での登校も目立つ。
c. 国内旅行で使われる交通機関	c. 韓国では国内旅行はマイカーが多く利用される。その他、遠方の大都市間は航空機や鉄道(KTX)、高速バスの利用が一般的である。 KTXと日本の新幹線を比べてみる。
d. 交通ルールや道路標識(車の右側通行など)	d. 車は右側通行である。車の運転は一般的に日本よりも荒い。 道路標識は「注意標識(黄色)」「規制標識(赤)」「指示標識(青)」「補助標識(白黒)」がある。世界で右側通行の国を調べる。
e. 交通機関の乗り方	e. ソウル仁川空港を例にして、バス、電車、航空機(金浦空港へ)の乗り方を具体的に確認する。ソウル仁川空港関連のホームページを参照。最近、ソウル仁川空港から、A'REXが金浦空港、ソウル市内まで開通し、鉄道網が整備されてきた。 A'REXでソウルの中心部までどの位の時間がかかるか調べる。
f. 案内表示	f. 仁川空港や金浦空港、ソウル市内の案内表示は多言語化され、韓国内の多文化化と観光客への配慮がうかがえる。日本語の表示があるか調べてみる。
g. 優先席(優先席の有無、席を譲る頻度)	g. 地下鉄には優先席がある。妊婦やけが人、小さな子ども連れの母親に席を譲るような表示がある。また、優先席には、若者は座ってはいけないという考え方があり、お年寄りの方には席を譲る傾向が強い。同じ意味、表示が異なるものを調べてみる。 席が空いていても、若者は座らないのが普通である。あなたならどうするか考えてみる。
h. 人気の修学旅行地	h. 日韓における家族との旅行数に関する資料をもとに比較する。韓国の方が、高校生であっても親子での旅行が多いというデータを分析し、背景にある日韓の家族観をつかむ。
i. 友達や家族旅行	i-k. 旅行(旅行先、行きたい地域、決め方)については、同行する相手や旅行期間、季節によって当然異なる。その中でも、韓国の特徴がよく表れているところに注目する。例えば、韓国は友人との交流が深い、親子の関係が強い傾向はあるが、それがどのように「旅行」について表れているか着目する。
j. 行きたい観光地、国	
k. 旅行先を決めるときの決め手	
l. 旅行の手配の仕方(インターネットなど)	l. 旅行会社はあるが、旅行の手配や各種チケットの手配はインターネットを介して予約し、決裁をする傾向が強い。日本と比較してみる。

人とのつきあい

文化事象例	扱うポイント
a. 初対面でのやりとり(自分の何を紹介するか、相手の何を知りたいか)	a. 初対面(これから交流を深めようとする場合)で、自分を紹介するとき、何をどの程度紹介したいかを比較し、日韓の温度差を理解する。一方、初対面で、相手の何を知りたいかを比較することで、日韓の違いが浮き彫りになる。年齢、家族構成、家族の職業、未婚か既婚か、恋人はいるか、兄弟姉妹はいるか、子どもはいるかなどに着目して比較する。
b. ボディランゲージ(相槌など)	b-c. 韓国は、友人関係における空間的・身体的な距離が近いといわれる。コミュニケーションは言語が中心であるが、いわゆるボディランゲージも適宜使われる。スキンシップは比較的許容範囲は広いといわれる。しかし、スキンシップについては、性別や年齢など、個人差があることを認識する。 b. 日本では自分を指すとき人差し指で鼻を指すことが多い。韓国ではどうなのかを調べる。
c. スキンシップ(スキンシップの許容範囲・やり方、接触に関するタブー)	c. 親しい仲であれば同姓同士で手をつないだりすることについて、どう思うか。
d. 通信手段(電話、メール、チャットなど)	d. 家族間や友人間では、電話やメール、チャットは頻繁に行われる傾向がある。例えば、仕事中でも家族間や友人間の連絡をすることについて、日本よりも許容範囲は広い。
e. 友だちといえる範囲	e. 韓国では、自分の「友人」の友人であれば、自分にとっても「友人」であると見なす傾向がある。自分と比較する。
f. 友だちとの付き合い方(友だちとの喧嘩と和解、円満な関係を維持するための工夫)	f-h. 韓国の友人関係は、身体的接触や物の所有の在り方、友人関係の結びつき方について、日本と比較し、韓国の特質を抽出する。
g. 友だちと一緒に過ごす時間にやること、話すこと	例えば、韓国では身体的接触は多く、初対面でもプライバシーにかかわることを話題にして、そこから友人関係を深めていく傾向がある。物の所有については、友人の物であれば比較的気楽に使う傾向がある。どのように付き合うか考える。
h. 友人の家への訪問(行く頻度、友人の家で許される行為)	
i. 好きな友だちのタイプ(外見、性格、成績、家庭環境に左右されるか)	i. 好きな友人のタイプは、国の特質というより、その時代時代の価値観の規定されることが多い。友達になれる決め手は何かを考え、自分と比較する。
j. 異性の友だちとの付き合い方	j. 異性の友達とは、それぞれの節目の日を大切にする。例えば、つきあい始めて22日、50日、100日をそれぞれ記念日とされている。その他にも、バレンタインデーやホワイトデー、“블랙데이”(ブラックデー)など、記念日は目白押しである。それぞれの記念日を調べる。
k. 家族や親族との集い(集いの機会、頻度、範囲)	k-l. 韓国の家族関係・親戚関係は、日本と比較して強い。家族では、食事は一緒にとることや喜びや悲しみは共有することが美德とされている。また、母子関係も強く、母親は子どもに教育的干渉を行い、子どもも母親を信頼している。親戚の絆も強く、先祖の命日などに親戚一同が集まることが多い。最近、負担感が増したことから、回数や内容面での見直しが行われている。
l. 両親や兄弟に話せる話題	親戚一同が集まると女性が家で料理などをしなければならない。そのことについてどう思うか。
m. お祝いと贈答(誕生日の祝い方、いつだれがどんなプレゼントをするかなど)	m. 贈り物については、友人間、恋人同士、先生へ、出産など、それぞれの場面ごとに整理する。

人とのつきあい

n.喧嘩やいじめ(原因と対処法)	n. 意思表示を明確にする関係上、意見のぶつかり合いは少なからず表出する。学校内のいじめやインターネット上のいじめについては、最近、大きな課題になっている。いじめが起きた場合、どのように対処しているか調べてみる。
o.先生との距離感(ことばづかい)	o. 先生は社会的に尊敬される立場である。生徒の言動は節度が求められる。一方で、教師に対する尊敬の念が薄れているのではないかとの指摘もある。先生に敬語を使うか、ため口で話すか調べ、自分と比べてみる。
p.お土産の習慣の有無	p. お土産の習慣はある。訪問先の家族へのお土産を用意すると喜ばれる。大きなお土産は、喜んでもらえる。旧正月と“추석”(秋夕)の前にはお世話になった方に贈り物を贈る習慣がある。どのような物を贈るか調べる。
q.家族と離れた時の連絡の頻度	q.家族を大切にする国民性があることから、携帯電話やメールでの連絡は密にとる傾向がある。

行事

文化事象例	扱うポイント
a. 年中行事や祝祭日(種類、由来など)	a. 年中行事や祝祭日の数、期間 種類、由来などに着目して、日韓を比較する。日本にはない行事、韓国にない行事を見つけて、その背景を探る。
b. 年中行事の過ごし方(お正月、バレンタインデー、クリスマスなど)	b. お正月、クリスマス、バレンタインデーなど。お正月、年末年始の場合:年賀状、初詣、正月の準備、主婦の仕事、お手伝いの比較をする。クリスマスの場合はクリスマスカードの出し方に着目する。
c. 通過儀礼(種類や過ごし方など)	c. 成人式はあるか、日本とどのような違いがあるかを調べる。結婚式、葬式などはどのように行うか、日本と比較する。
d. 記念日やお祝い(種類や過ごし方など)	d. 誕生日、引越し、受験など。好まれるプレゼントと包装。誕生日:特別な食べ物、喜ばれる誕生日プレゼント、包装の仕方、誰がご馳走するかなどに着目する。引越し:引越し祝いに何を持って行くか調べる。またその理由を考える。受験:応援の仕方に着目し、韓国の高校の具体例をみながら理解する。特に、カリキュラムや放課後で準行事にしている学校の事例を参考にして観察する。受験当日は校門に飴やチョコレートを貼り付けたり、鏡、フォーク、トイレトペーパーといった3点セットをプレゼントしたりする習慣があることを知る。なぜそのような物をプレゼントをするか推測する。
e. 特別な記念日(種類、由来など)	e. 恋人たちの100日記念日など。
f. 祭祀“제사”、法事、先祖供養など	f. 先祖の霊を供養するための行事。“제사”(チェサ)は宗教行事というよりも、儒教の影響で代々継がれてきた先祖崇拝の儀式に当たる。散らばっている子孫も“제사”の時だけ集まって、家族の絆を確認するなど、現在でも韓国人にとっては重要な習慣である。日本の法事と韓国のはどこがどう違うか調べる。また日韓双方でも、家族や地域性による違いがあることを再確認する。

地域社会と世界

文化事象例	扱うポイント
<p>①韓国の歴史、政治、行政、地域社会などのしくみやごく基礎的な事項について知り、日本との違いを理解する。 ②歴史的事象や人物は複眼的な視点からとらえる。 ③現代社会の課題については、具体的な資料を活用し、少子高齢化、離婚率の向上、晩婚化など、日韓の共通する課題を考察する。その上で、日韓の相違について考える。</p>	
a. 首都・大都市の地名	
b. 世界の主な国の名称	a-c. 韓国の大都市や世界の国名と、その地名が持つ意味や由来についての理解を深める。
c. 地名のもつ意味・由来	
d. 国家元首、地方自治体の首長	
e. 行政区画(道・市・区など)	d. 日本の首相と韓国の大統領、県知事と道知事、市長を比較する。
f. 歴史上の人物やできごと	e. 特別市・広域市・道・市・群・区の行政区分があることに気づく。
g. 王朝名	f. 複眼的な視点からとらえるために、韓国で活躍した(している)日本人の視点をもつ。 g. 왕조 ・57 B.C. - 668 A.D.: 三国時代(新羅、百濟、高句麗) ・668 - 935: 統一新羅 ・918 - 1392: 高麗 ・1392 - 1910: 朝鮮 ・1910 - 45: 日本の韓国占領期 ・1945 - 60: 1948年南朝鮮に大韓民国政府が樹立
h. 友好県、友好都市	h. 日韓の地方自治体間の友好提携関係に着目する。
i. 地域社会の組織・活動	i. 韓国では様々な市民団体が結成され、活動を活性化させてきた。最近では、ボランティアも盛んになり、各地域のボランティアの窓口が開設されている。
j. 地域の行事(夏祭りなど)	j. 各地域で独特のお祭りを開催している。全羅南道は南道の特性を活かした地域代表祭りを体系的に発展させるために、一市郡一祭りを選定し、集中的に育成することにした。
k. 免許取得・飲酒・喫煙・結婚ができる年齢	k. 様々な年齢制限や年齢の規制について比較する。
l. 2002FIFAワールドカップ	l. 日韓の若者の気持ちが一つになった経験として取り上げる。
m. 世界遺産	m. ESD(持続可能な開発のための教育)の視点を入れる。 世界文化遺産: 石窟庵と仏国寺(1995年)、海印寺大蔵経板殿(1995年)、宗廟(1995年)、昌徳宮(1997年)、華城(1997年)、慶州歴史地域(2000年)、高敞、和順、江華の支石墓群(2000年)、朝鮮王陵(2009年)、大韓民国の歴史的村落:河回と良洞(2010年)世界自然遺産: 済州火山島と溶岩洞窟(2007年)

地域社会と世界

n. 政党、選挙制度	n. 1988年以降の国会議員選挙では、小選挙区比例代表並立制が採用され、小選挙区の比率が大きくなっている。比例代表部分は二割弱に留まっている。比例代表部分は、候補者に投票する地域区の得票率に応じて議席配分されていたが、2004年の選挙から二票制が導入された。現在の与党はハンナラ党、野党は民主党、自由先進党などがある。
o. 朝鮮半島の分断、休戦ライン	o. 朝鮮戦争後の休戦ライン。1953年7月23日の休戦協定により発効した。軍事境界線ともいう。分断の現実を知り、韓国人の気持ちを考えてみる。
p. 徴兵制	p. 18歳男子の徴兵検査によって資格が判定される。兵士の兵役義務期間は陸軍と海兵隊で24ヶ月、海軍で26ヶ月、空軍で28ヶ月、海軍と空軍は志願しない限り配属されない。
q. 日韓の歴史観	q. 1982年のいわゆる「歴史教科書問題」に端を発した歴史認識問題は、現在においても、教科書叙述や竹島(独島)の問題や政治家の発言などで、日韓に横たわる歴史認識の問題が顕在化する。
r. 環境問題対策(ごみの捨て方、ホテルのアメニティグッズなど)	r. スーパーではレジ袋の有料化が進んでいる。ホテルのアメニティグッズは必要最低限度しか置いていない(歯ブラシなどはないことが多い)。食物ゴミと一般ゴミの分類はされているが、食物ゴミ分類基準は地域ごとに違う。
s. 少子高齢化社会	s. 韓国は2000年に高齢化社会(65歳以上が全人口の7%以上)になった。2019年には超高齢化社会(同20%以上)になる。合計特殊出生率(ひとりの女性が一生に出産する子どもの数)は、1970年には4.53だったが、1980年2.83、1990年1.59、2000年1.47と急落してきた。2005年の数値は1.08である。
t. 地域・都市・国家・民族に対するイメージ	t. 韓国人は、相対的に地域や国家、民族意識が強い。
u. 民族意識と地域意識	u. “우리나라”がもつ意味などに着目して日韓で比較する。
v. ジェンダー(男女の役割、家事と仕事の分担、社会的地位など)	v. 韓国では、儒教の影響を受け、外の仕事は男、家の仕事(家事)は女と、仕事を分担していた。しかし、近年、男女は協力すべきだという考えのもと、男女が協力し合う環境が芽生えてきた。

自然環境

文化事象例	扱うポイント
韓国は北半球の中緯度上に位置しているため四季がはっきりと分けられる。夏は暑く雨が多い。冬は寒く降水量は少ない。南北に長い地形のため南下するにつれ海洋性の温和な気候になる。	
a. 四季（四季の有無、四季の分け方）	a-c. 春:ソウルでは4月中旬頃桜が見られる。桜の他にもつつじなどが野山を彩る。暖かな陽気が続くが、気圧の差によって黄砂現象やフェーン現象も見られる。花粉症はあるか、黄砂対策はどうしているか、どんな形のマスクが考案されたか。
b. 季節を象徴するもの（何を見ると春か、初雪、黄砂など）	夏:高温が続く。にわか雨も多く6月下旬から7月にかけては本格的な梅雨の季節となる。 秋:9月から11月までは昼と夜との気温差が激しく長雨や台風などの被害がある。紅葉は10月上旬ごろから雪岳山で始まり、11月にはソウルでも楽しめるようになる。日本のように紅葉狩りはあるか。
c. 気候（暑さ、寒さ、湿度などの地域差）	冬:12月から3月中旬まではシベリアからの寒波のため寒さが厳しい季節。寒さ対策はどのようになされているか。
d. 天気予報	d. 韓国の天気予報は「KONEST」のホームページが充実している。
e. 寒さ・暑さのしのぎ方	e. 韓国の寒さは“온돌”(床暖房)でしのぐ。日本は部屋の空気だけ温めるので、床暖房になれている韓国人は日本の方が寒く感じる。韓国の冬の服装は、帽子、マフラー、手袋は必需品である。韓国の夏は、日本同様に高温になる。エアコンが効いている室内にすることが多い。食事面では冷たい食事が好まれるが、“삼계탕”(参鶏湯)のように熱く栄養満点の食事も好まれる。
f. 季節のイベント(冬祭り、夏祭り、花見、紅葉狩りなど)	f. 韓国ではイベントやフェスタという形式で、季節のイベントが行われることが多くなってきた。 花見:桜以外の花見も行われる。 紅葉狩り:韓国では日本同様に、秋になると家族や友人で紅葉狩りに行くことが多い。
g. 天気や四季にまつわるあいさつ	g. 韓国では日本同様に天気や四季にまつわるあいさつがある。特に手紙など、礼儀をわきまえる関係では、時候のあいさつは一般的に必要なものである。年賀状やクリスマスカードを出す習慣はあるのか。
h. 国土の広さ、地形	h. 韓国の国土面積は98,480km ² である。半島で、全体の地形の約2/3が山岳地形。溪谷と丘陵の地形が多い。
i. 山、大河川、海洋の名称	i. 山:“설악산”(水落山)が美しい山ということで有名。 大河川:“한강”(漢江ハンガン)が有名。 海洋:日本海の呼称については留意する。
j. 島国と半島の違い	j. 韓国は、大陸に接していることから、気候は大陸性気候に近い。夏は高温になり、冬の寒さは厳しい。
k. 自然と人の付き合い方(キャンプ、登山、花見など)	k. 韓国の四季ははっきりしている。韓国人も四季折々の美を楽しんでいる。
l. 景勝地	l. 富士山と金剛山の比較をしたり、軺の浦(アニメ・ポニョの舞台といわれ、朝鮮通信使の寄港地)について考えたりして、日韓のつながりに気づく。

自然環境

m. 自然災害の種類と対策（地震、台風、津波など）	m. 韓国にも地震や火山活動、台風があるのかについて理解を深める。
n. 気候変動と環境問題	n. 韓国は経済協力開発機構(OECD)加盟国のうち、気候変動への適応とエネルギー自立の側面で最も低い評価を受けた。
o. 地域開発と自然保護	o. 朝鮮半島と日本にゆかりのある地域との関係について考える。 韓国: 공주(公州)、경주(慶州)、부산(釜山) 日本: 鞆の浦や牛窓など、通信使の寄港地など

ことば

文化事象例	扱うポイント
a. ハングル文字の起源	a. 漢字、日本語の文字も含め、世界の文字の中でのハングルの位置づけをすることによって、ハングルの文字としての普遍性、創造性、完成度を理解する。
b. 「韓国語」、「朝鮮語」、「ハングル」などのことばの名称	b. 「韓国語」、「朝鮮語」、「ハングル」「韓国・朝鮮語」という表記はそれぞれどのような意味があるのかを考える。
c. 韓国語を使用している地域、国	c. 主に大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国および中華人民共和国吉林省延辺朝鮮族自治州・長白朝鮮族自治州で使われている。これらの地域でなぜ韓国語が使われているか考える。
d. 韓国で話されていることばの種類	d. 韓国で話されていることばの種類について知り、その背景にある多文化状況を理解する。
e. 漢字語	e. 漢字語の共通点、違い
f. 書き言葉と話し言葉の違い	f. 書き言葉は公的な表現で書かれていることが多い。話し言葉は、時と場、相手に応じた表現になる。ネットでは、新造語が多く見られるようになった。元の言葉からどのように変わったのか考える。
g. 敬語の使い方	g. 日本語の敬語の使い方と比較して違いを理解する。
h. 丁寧語と“판말”の許容範囲	h. 韓国では、年長者や目上の人にあまり丁寧な言い方をされると、言われた方は距離を感じることもある。打ち解けた関係では、“판말”を使った方が、人間関係が円滑になる。
i. 擬声語と擬態語(オノマトペ)	i. 擬声語と擬態語(オノマトペ)について、韓国朝鮮語・日本語・英語などでそれぞれどのような特徴があるか比較する。
j. 外来語の取り入れ方	j. 外来語の取り入れ方や普及状況について日韓で比較する。
k. ことわざ、四字熟語、慣用句	k. 日韓のことわざを比較し、同じ意味をもつことわざを発見することを通して理解を深める。漢字文化圏に共通する四字熟語を発見する。例:「八方美人」は韓国ではどういう意味か考える。
l. 感謝、謝罪、褒めことば	l. 感謝、謝罪、褒めことばを比較する。
m. 新造語、はやりのことば	m-n. “기러기아버지”“중 2병”など、社会問題を反映した言葉が生まれている。流行語は特定の人を中傷するときもあるので使用は留意する。ジョークについては、時と場、相手に十分留意する。
n. ジョークの言い方	
o. 雄弁教室	o. 韓国では、人前で堂々と話すため雄弁教室に通う人がいることを知り、自己を主張できることを大切にする韓国文化の一端を知る。
p. 愛情を表現することば	p. 交際前、告白時、交際中で、それぞれの表現が異なる。女性が男性を呼ぶとき、男性が女性を呼ぶときも、交際が進むにつれ変わってくる。
q. キロギ(雁)家族の現実	q. “기러기아버지”といわれる家族の問題状況を知り、韓国における外国語教育の現状を理解する。
r. 一番習いたい外国語	r. 日本人として韓国語を学ぶ意味について意見交換する。
s. 必須外国語と第2外国語	s. 日韓の小中高校における外国語科目の位置づけの違いについて知る。 例: 韓国の高校における日本語学習者80万人。